

事業概要

平成 2 9 年 度

(平成 2 8 年度実績)

福島県総合療育センター

はじめに

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故から6年が経過しました。震災からの復興も着実に進み、原発周辺の地域の放射線量も下がり、住民の故郷への帰還も始まりました。

社会福祉施設を取り巻くここ10年の変化として、児童福祉法の改正や障害者総合支援法の制定などにより障がい区分や支援制度の見直しが行われ、また、入所者の高齢化、障がいの重度化など施設利用者にも状況の変化が生じています。このことを踏まえ、県は12年ぶりに県立社会福祉施設の在り方の見直しを行いました。その中で、当センターは「本県の療育体制の中核機関及び地域療育体制支援拠点としての機能を強化し、今後も県立施設として運営していく。」という答申がなされました。このことは、療育センターは今後も県直営として機能し続けるということであり、今年度当センターにとって最も大きかった出来事と思われまます。

ただ、それだけに期待されていることも多く、福島県の障がい児のためにしっかりと仕事をしなければならないと気を引き締めたところです。障がい児の療育を行うことは勿論のこと、民間ではなかなか取り組むことができない短期入所事業や日中一時支援事業、相双・県南・南会津の各地区で行っている地域リハビリテーション支援事業などにも一層力を入れていきたいと考えています。利用者の障害の重度・重複化は年々進んでおり、療育を行う上で看護師、保育士など職員の負担も増加していますが、利用者のニーズに応えるべく頑張っていく所存です。

また、当センター内にある発達障がい者支援センターが平成28年10月に開所10周年を迎えました。当センターを利用されるお子様も自力移動が困難な肢体不自由児からセンター内の廊下を走り回る発達障害をもったお子様に変化してきています。支援センターの実績として、この10年で相談支援・発達支援は19年度276件から27年度383件、普及・啓発活動としての研修における講師派遣が19年度3回、利用者288名から27年度11回、参加者525名と、支援センターの利用者が増え続けています。しかし職員の不足などから、利用までの予約待ちも長くなり、利用者にご迷惑を掛けている状態です。今後は、訓練士、臨床心理士の増員を図り、円滑に業務が行われるよう努力してまいります。

今後も職員一同、時代の変化についていけるよう、また障害をもったお子様、ご家族が幸せに生活できるよう精進を続けて参ります。本年も当センター事業へのご理解、ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

平成28年度の実績をもとに事業概要をまとめました。皆様方のご活躍の一助にしていたければ幸いです。

平成29年10月

福島県総合療育センター

所長 武田 浩一郎

目 次

I 概要

1 設立の目的・沿革

- (1) 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2 業務内容

- (1) 定員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) 診療科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

3 組織・職員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

4 施設概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

II 業務

1 医療型障がい児入所施設

- (1) 入所部門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 通所部門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- (3) 母子入所部門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

2 診療相談

- (1) 一般入所の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- (2) 外来患者の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- (3) 整形外科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
- (4) 小児科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- (5) 耳鼻咽喉科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- (6) 精神科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
- (7) リハビリテーション科・・・・・・・・・・・・ 28
- (8) その他の診療科・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
- (9) 薬剤部、臨床検査、放射線室、地域連携室 32

3 短期入所事業及び日中一時支援事業・・・・・・・・ 34

4 保育所等訪問支援及び障害児相談支援・特定相談支援事業 34

5 発達障がい者支援センター・・・・・・・・・・・・ 36

- (1) 設立の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

(2) 発達障がいとは	36
(3) 業務内容	36
(4) 実施件数	36
(5) 主催研修の実施状況	39
(6) 被災した障がい児に対する医療支援事業実施状況	40
6 その他	40
(1) 実習生・ボランティア受入	40
(2) 外部講演会講師・ケース検討会等	40
(3) 公開講座	42

Ⅲ 研究成果等

全国療研・東北療研等における研究発表内容等	43
-----------------------	----

I 概 要

1 設立の目的・沿革

(1) 目 的

当センターは、児童福祉法による障害児入所施設であると同時に医療法による病院であり、手足または体幹の機能の不自由な児童に対し、通所あるいは入所により、治療・訓練・生活指導及び教育を有機的に行い、それに加えて総合的な外来診療部門を充実して、障がいの早期発見並びに早期治療・訓練及び教育を行うための総合療育を目的としている。

(2) 沿 革

昭和38年 1月 1日	郡山療育園開園
昭和38年 1月 1日	初代園長として医大教授 鈴木良平医師兼務発令
昭和38年 4月 1日	2代園長として菊地稔医師発令
昭和38年 5月 1日	福島県指令第702号病院開設許可
昭和38年 6月 1日	児童入園開始
昭和42年 1月 1日	3代園長として鬼満雅医師発令
昭和43年 8月 3日	皇太子殿下同妃殿下ご視察
昭和46年 5月 6日	母子入園開始
昭和48年 6月 3日	園旗・シンボルマーク・園歌の制定・記念像門柱の建設
昭和54年 9月12日	ボイラー監視室増築
昭和59年 7月 7日	心身障害児総合療育センター並びに養護教育センター整備事業の着手（現在地において全面改築）
昭和62年 4月 1日	福島県心身障害児総合療育センターと改称
平成 5年 6月 1日	創立30周年記念式典挙行 記念誌「30年のあゆみ」を刊行
平成 7年 7月28日	高円宮同妃殿下ご視察
平成11年 4月 1日	4代所長として渡辺真医師発令
平成12年 9月16日	皇太子殿下同妃殿下ご視察
平成14年 4月 1日	5代所長として富樫薫医師発令
平成15年 4月 1日	居宅生活支援として児童短期入所事業開始
平成16年 4月 1日	福島県総合療育センターと改称
平成17年 4月 1日	「地域連携室」設置 肢体不自由児地域リハビリテーション支援事業開始
平成18年10月31日	「発達障がい者支援センター」設置
平成19年 4月 1日	リハビリテーション科新設 「地域連携室」を「地域支援室」へ改称
平成24年 4月 1日	6代所長として武田浩一郎医師発令
平成25年10月28日	開園50周年記念式典開催
平成26年10月14日	放課後等デイサービス開始
平成27年 4月 1日	保育所等訪問支援、障がい児相談支援、特定相談支援開始

2 業務内容

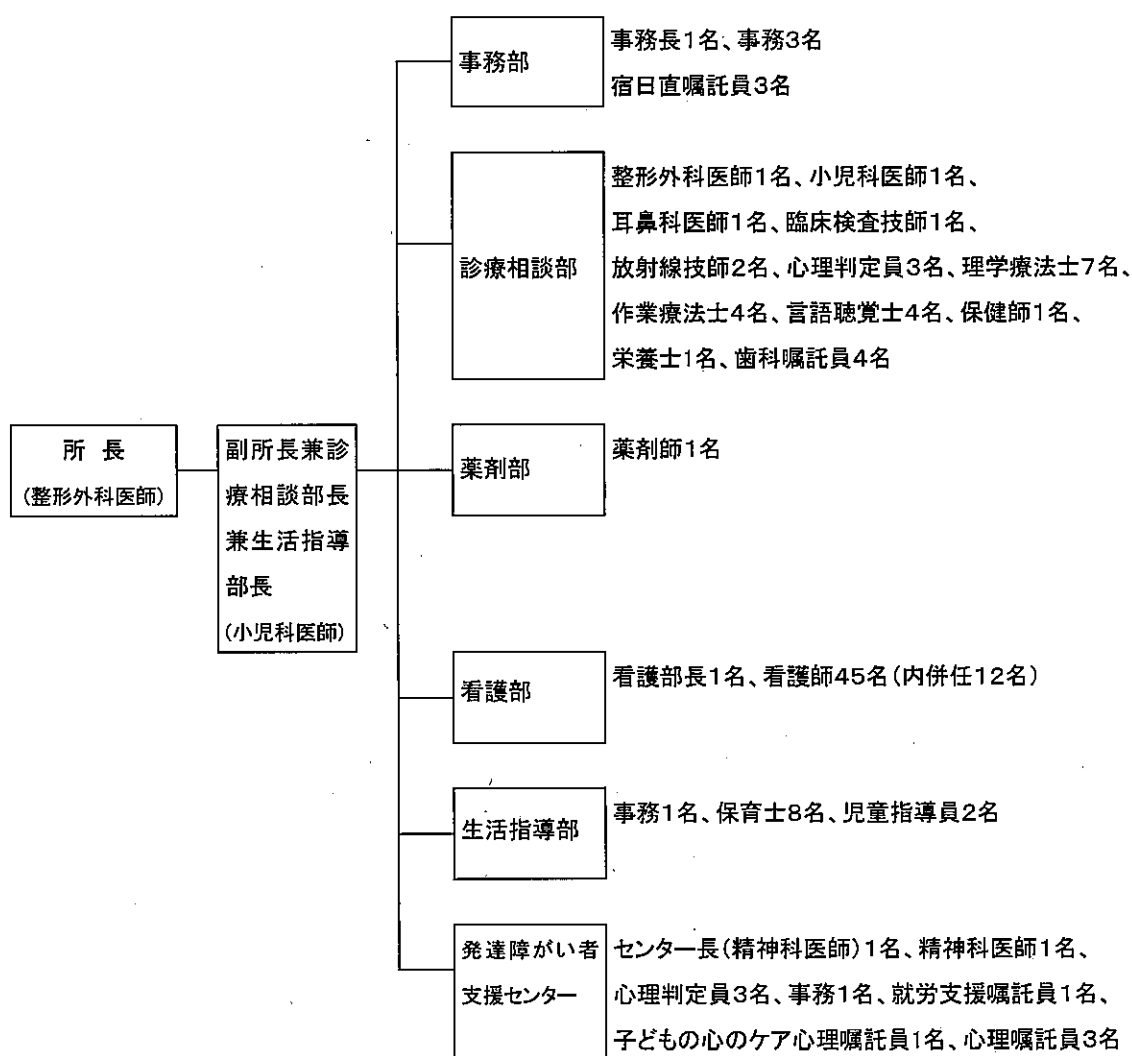
(1) 定員

- ・ 措置及び契約入所80名、一般入所10名
- ・ 契約通所20名

(2) 診療科目

- ・ 整形外科、小児科、耳鼻咽喉科、精神科、眼科、泌尿器科、歯科、リハビリテーション科

3 組織・職員



正規職員 96 名

嘱託員 12 名

計 108 名(H29. 5. 1現在)

4 施設概要

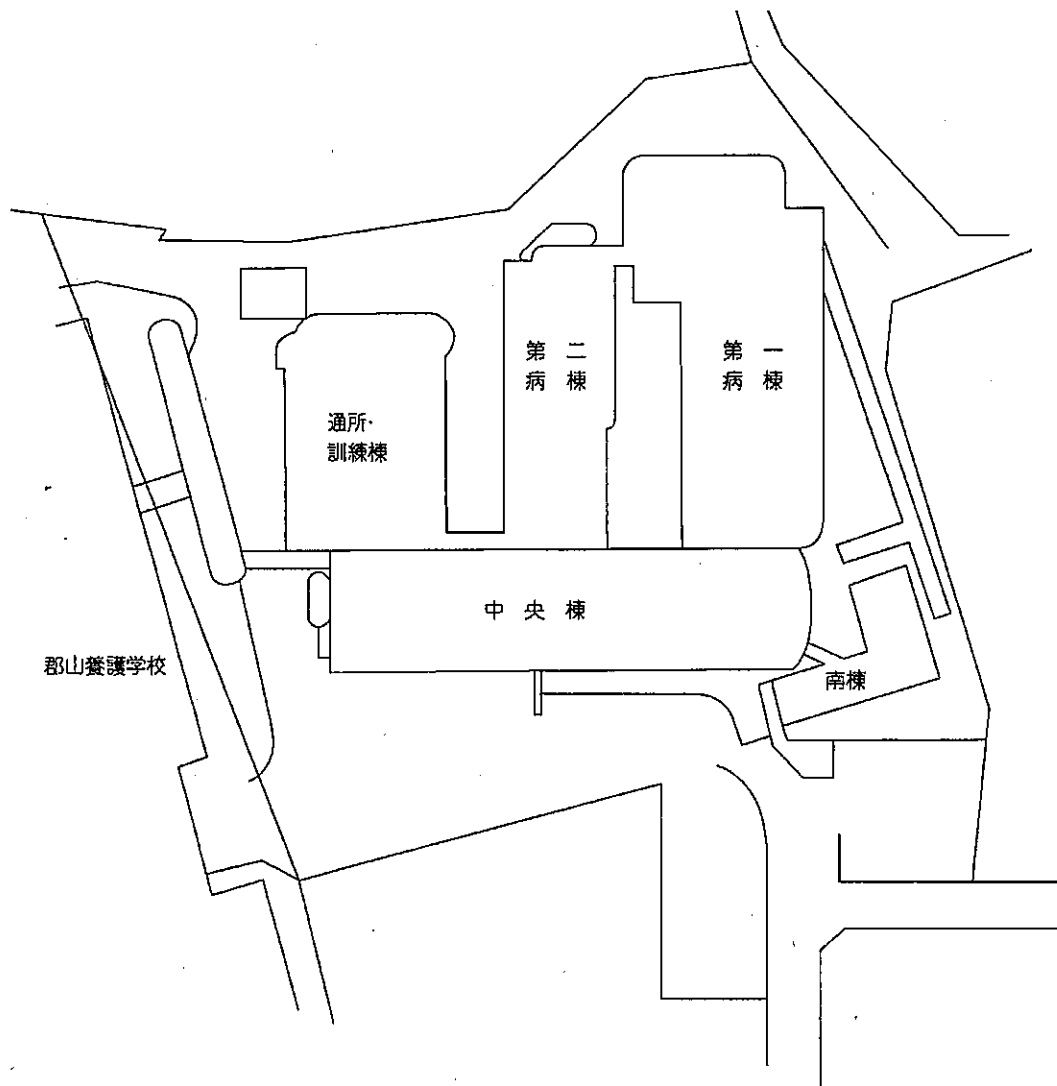
○ 土地

敷地面積 … 12,215.74㎡ (内借入地10,964㎡)

○ 建物

庁舎	鉄筋コンクリート造、亜鉛鉄板葺、3階建1部2階 (うち養護教育センター3F 1,954㎡)	… 8,662.76㎡
南棟	鉄骨造、ストレート波板葺、1部2階建	… 433.65㎡
倉庫	パネル組立式軽量鉄骨造、鉄板葺、平屋建	… 43.52㎡
車庫	鉄骨、鉄板葺、平屋建	… 104.16㎡

建物配置図



Ⅱ 業 務

1 医療型障がい児入所施設

(1) 入所部門

[本年度の特徴]

2つの病棟に未就学児童から高校生まで入所している。ここ数年、未就学児童の手術及び後療法目的の入所が増加しているとともに、社会的要因で入所する低年齢の児童も増えてきている。また、重度障がい児の入所が増えつつある。

児童日課表及び病棟職員業務内容 (1) …1病棟、 (2) …2病棟

時刻	勤務形態	児童日課	病棟職員の業務内容(看護・指導)
5:00	深夜勤務(看護師)		巡視、洗面準備、与薬準備、経管栄養準備、注入実施(2)
6:00	夜勤(保育士)	起床	起床、更衣、洗面、排泄介助、オムツ交換 バイタルチェック 経管栄養注入(2) 吸入
7:00		朝の集い、朝食、水分補給	与薬、処置、食事介助、登校準備
8:00	日勤(看護師)	登校	当直医報告、申し送り、オムツ交換、登校介助、記録
8:30			
9:00	遅出日勤(看護師・保育士)	訓練	吸引器洗浄、リネン交換、環境整理、清掃、入浴準備、吸入準備、訓練後登校介助、車イス坐位保持清掃、衛生材料等物品補充
9:30			
10:00	遅出日勤(看護師・保育士)	保育	衣類の整理と準備、保育、申し送り、カンファランス、オムツ交換、医療廃棄物の処理
11:00			与薬準備、注入準備(2)、内服薬分包、Dr.カンファ(2)、経管栄養注入(2)、オムツ交換
12:00	夜勤(看護師・保育士)	下校検温、昼食	バイタルチェック、与薬、昼食介助、経管栄養注入(2)、吸入
13:00		登校、SST	登校介助、余暇指導
14:00	夜勤(看護師・保育士)	入浴、おやつ(2)、水分補給	入浴、おやつ介助、洗面準備、医療的ケア(処置)
15:00		訓練、講堂遊び、おやつ(1)、余暇指導	訓練送迎、オムツ交換、記録、おやつ介助、余暇指導、講堂遊び(1)
16:00	準夜(看護師・保育士)	SST、余暇指導、グループワーク	処置、申し送り、グループワーク(2)、経管栄養注入(2)、吸入実施(2)、記録
16:30			
17:00	夜勤(看護師・保育士)	夕食、歯磨き	夕食介助、更衣介助、歯磨き指導、学校用吸引器洗浄、物品補充
17:15			
18:00	夜勤(看護師・保育士)	学習(1)	学習指導、バイタルチェック、吸入
18:15			
19:00	夜勤(看護師・保育士)	水分補給	与薬、処置、排泄介助、オムツ交換、余暇指導
20:00		就寝準備、消灯(未就児)	就寝準備介助、朝の衣類・オムツ・登校の準備、当宿医報告、経管栄養注入(2)
21:00	看護師	就寝消灯	巡視、記録、日記添削、清掃、経管栄養注入(2)
22:00			巡視、体位変換
23:00	保育士		巡視、体位変換、記録
0:00			巡視、申し送り、経管栄養注入(2)、体位変換
0:30	深夜勤務(看護師)		巡視、体位変換、検査準備、与薬準備
1:00			巡視、体位変換、検査準備、与薬準備
1:15	深夜勤務(看護師)		巡視、体位変換、検査準備、与薬準備
2:00			巡視、体位変換、検査準備、与薬準備
3:00	深夜勤務(看護師)		巡視、体位変換、看護計画作成・評価・修正
4:00			巡視、体位変換、経管栄養準備、オムツ交換、更衣(2)、吸入準備

日勤8:30~17:15、準夜16:30~1:15、深夜0:30~9:15、夜勤14:30~9:00、遅出9:30~18:15

日勤=看護師・保育士、準夜・深夜=看護師、夜勤=保育士、遅出日勤=看護師・保育士

② 未就学児保育

[保育目標]

- ・ 治療及び訓練の効果を相乗的に高め、入所している未就学児各自が楽しみながら生活できるよう支援する。
- ☆ 具体的な実施にあたっては、医療型児童発達支援おひさまの年間保育計画及び月間保育カリキュラムに基づき、障がい及び発達レベルに応じた「感覚遊び」や「ポータージ」を積極的に取り入れている。

[保育時間]

月曜日から金曜日 10:00～11:30

- ☆ 第2水曜日は音楽療法

③ 看護体制

[看護配置基準] 平成28年4月1日現在

障害者施設等入院基本料2(10対1)

特殊疾患入院施設管理加算 2病棟40床

[看護単位]

- ・ 第1病棟(50床) 看護師長1名 看護職員15名(計16名)
特性:小児整形外科的疾患の手術・後療法を中心としたリハビリ治療。
社会復帰を目標にリハビリ、生活指導、訓練に重点を置いて療育。
- ・ 第2病棟(40床) 看護師長1名 看護職員16名 専門員1名(計18名)
特性:重度重複障がい児が大半を占める。
医療的看護の必要度が高い
- ・ 外来 看護師長1名 看護職員10名 専門員2名(計13名)

[看護部理念]

こどもと家族から信頼される療育を実践する。

[看護目標]

- 1 児童の安全に配慮し、個別性を大切にしながら情緒面とともに個々人の機能に応じた指導と援助により、積極的に治療・訓練が受けられるように働きかける。
- 2 児童の持つ能力を最大限に引き出し生活の質の向上を図り、心と体の成長と発達を促していく。
- 3 レクリエーション活動なども提供し、豊かな入所生活を送れるよう援助する。
- 4 看護の専門的知識、技術の向上に努め、質の高い療育を提供する。

④ SST(社会生活技能訓練)

[目的]

障がいを持つ入所児が『自信を持って生き生きと地域の中で自立して生活する。』ためのコミュニケーション能力および生活技能の習得を目的とする。

[活動内容]

- ・ 対人コミュニケーション:挨拶・感謝・お礼、質問のしかた等
- ・ 生活関連動作:道路の歩き方、信号機の見方、買い物のしかた等

[実施対象児と活動時間]

- ・ 対象児:平成27年度は、対象児なし。

① 生活指導

入所児童の障がい及び発達レベルに配慮しながら、生活リズムを整え、食事・排泄・衣服の着脱等の基本的な生活習慣の習得を支援するとともに、集団生活の中で余暇時間を活用し、個別・グループ別の活動や季節の行事を組み入れる等の工夫により、豊かな情操と社会性を育み、心身の成長・発達を促すよう努めている。

<生活指導目標>

- 1 個々の療育目標に応じた基本的な生活習慣を身に付ける。
- 2 集団生活を通し、お互いを思いやり協力して生活する。
- 3 余暇時間を楽しみながら生活する。

月間生活指導目標及び行事

☆は学校行事

月	月間指導目標	指導内容	主な行事
4	友だちと仲良くする	・入学、進級したことを自覚する ・友だちを思いやる ・センターでの生活を理解する	・入所 ・リエンジニア ☆入学式 ☆始業式 ・保育始め
5	障がいを理解する	・入所目的を自覚する ・友だちを思いやる ・車椅子、補装具を大切にする	・児童会役員選挙 ・児童会総会 ・春の遠足（未就学児）
6	時間を守る	・大きな声で挨拶、返事をする ・基本的な生活習慣を身につける ・規則正しい生活をする	・交流保育
7	目標を持って生活する	・暑さに負けず治療、訓練に励む ・夏休みを計画的に過ごす ・社会経験を積む	・七夕 ・保育参観 ・保育終了式 ☆終業式 ・親子レク
8	積極的に行事に参加する	・楽しく行事に参加する ・家族交流を大切にする	・夏休み家族交流期間 ・保育始め ☆始業式
9	作り上げる喜びを知る	・生活の中で創意工夫をする	・お月見 ・秋の遠足（未就学児）
10	ものを大切にする	・身の回りのものを大切にする ・整理整頓をする	・運動会（未就学児）
11	感謝の気持ちを持つ	・身の回りの人に感謝する ・素直に“ありがとう”が言える	
12	みんなで協力し合う	・みんなで協力しあい、楽しいクリスマス会にする ・家族交流を大切にする	・本宮ツォニックアウト 慰問 ・クリスマス会 ・保育終了式 ☆終業式 ・冬休み家族交流期間
1	新たな気持ちで生活する	・伝統的行事を体験する ・毎日の生活を見直す	・保育始め ☆始業式
2	自立に向けて取り組む	・自分でできることを確認し、努力する ・自分の進路をよく考える	・豆まき
3	自分をよく見つめ考える	・一年間をよく振り返ってみる ・新年度に向けての抱負を持つ ・家族交流を大切にする	・ひな祭り 保育終了式 ・卒業進級を祝う会 ・春休み家族交流期間 ☆卒業式、修了式、入試

[月の行事]…児童集会（第4月）、誕生会（第3木）、散髪（第4月…7・1月は休み）

[週の行事]…講堂遊び（火）、パソコンクラブ（木）、グループワーク（日曜日～金曜日）

[スタッフ]

作業療法士、保育士、看護師、心理判定員

[方 法] (平成26年度実施事例)

社会生活経験が極めて少ない児童のために、スタッフが作成したビデオまたは、職員が手本を見せ、模擬的環境で練習し、地域で実習（プログラムと実施状況を参照）を行うという一連の流れを繰り返す方法をとった。また、家族との連携を取りやすくするため、各回毎に“SSTだより”を作成し、SSTの実施内容を家族に伝える形で行っていたが、現在は対象者がいないため実施していない。

プログラムと実施状況

クール	内 容 (テーマ)	期 間	回数
1	<バスに乗って買い物をしよう！> ① お金の見分け方と使い方 ② 道路の歩き方 ③ バスの乗り方 ④ 買いもの	H26. 5. 8～H26. 7. 24	8回
2	<電車に乗っておつかいに行こう！> ① お願いのしかた ② 電車の乗り方	H26. 9. 11～H26. 11. 13	6回
3	<お客様を招待して、 ティーパーティーを開こう！> ① 買いもののしかた ② ティーパーティーの内容を考える ③ 調理の仕方	H27. 1. 8～H27. 2. 12	6回

⑤ 自治活動

[あおぞら児童会]

クラブ活動や各行事への参加を通して集団生活のルールを守り、協力しあい明るく快適なセンター生活を送るとともに、責任感や自主性を養う。未就学児を除く入所児童全員で構成し、生活指導部職員が助言・指導を行う。

a 執行部

入所児童のうち、立会演説及び選挙により、会長、副会長及び書記の三役が選出任命される。児童集会、誕生会等の毎月定例で開催されるものや各行事（クリスマス会、卒業進級を祝う会等）の準備・運営を行う。

主な活動	時間・場所	活 動 内 容
児童集会	PM 6 : 3 0 児童食堂	第4月曜日。月の目標の設定と反省 行事予定、クラブ報告、生活上の留意点 他
誕 生 会	PM 6 : 3 0～ 児童食堂	第1病棟第3木曜日。児童会役員の司会 で該当月の誕生児を祝う。
	PM 4 : 0 0～ たんぼぼ室	第2病棟第3木曜日。該当月の誕生児を 祝う。

児童会主催の 行事	児童会総会、クリスマス会、卒業進級を祝う会
--------------	-----------------------

※その他、行事開催に伴う準備のため、その都度会議を開催する

b クラブ活動

	事 項	活 動 内 容
パソコンクラブ	毎週木曜日 P M 4:00~5:00の定 期的活動	パソコンの基礎を学ぶ タイピング練習 クリスマス会の招待状作成 アルバム作成

⑥ 訓練部門

ア 理学療法

・ 週間予定表

	月	火	水	木	金
9:00~	入所児	入所児	入所児	入所児	入所児
9:45~					
10:30~					
11:15~					
13:15~				P T 会 議	
14:00~					
14:45~	入所児	入所児	入所児	入所児	入所児
15:30~					
16:15~					療法士室会議

- ・第1・3週座位保持診(月)(13:15~)
- ・第2・4週術前・術後会議(火)
(8:30~9:00)
- ・補装具診(火)(13:30~)
- 外来訓練・通所児訓練
- ・第1病棟リハ会議(木)
(8:30~9:00)
- ・第2病棟診(火)(9:00~)
- ・第4週(木)
 - 運営会議
 - 感染対策委員会
 - 安全管理委員会

・ 入所・理学療法疾患別対象児数

	26年度	27年度	28年度
脳性麻痺 (リスクを含む)	32	32	38
その他の脳原性疾患	15	19	17
二分脊椎・脊椎疾患	2	2	4
進行性神経・筋疾患	5	9	10
骨・関節疾患	21	13	12
染色体異常	3	4	4
(精神) 運動発達遅滞	4	3	2
その他	1	2	2
計	83	84	89

イ 作業療法

・ 週間予定表

	月	火	水	木	金
9:00~	入 入 入 入	入 入	入	OT会議	入 入 入
9:45~					
10:30~					
11:15~					
12:00~	入 入 入 入	入 入 入 入	入 入 入 入	入 入 入 入	入 入 入 入
13:15~	※				
14:00~	入 入 入 入		入 入	入	入 入
14:45~			入	入 入	入
15:30~	入	入 入 入		入 入	入
16:15~	入 入	入 入 入	入 入	入 入	療法士室会議

※ … 第1-3週、座位保持診

入 … 入所児

□ : 外来訓練・通所児訓練

・ 疾患別対象児数

	26年度	27年度	28年度
脳性麻痺	23	22	24
その他の脳性運動障害 (※)	20	20	12
二分脊椎	1	1	0
先天性股関節脱臼	0	0	0
骨系統疾患	1	1	0
外傷後遺症	1	1	0
進行性神経・筋疾患	5	5	6
その他の整形外科	0	0	2
その他	2	2	6
計	53	52	50

※頭部外傷を含む

ウ 言語聴覚療法

・ 週間予定表

	月		火		水		木		金	
9:00~	外来		外来		外来			外来		
9:45~	耳鼻科		耳鼻科		耳鼻科			耳鼻科		
10:50~										
13:10~				入				入		
14:15~				入				入		
15:20~				入						
16:25~				入				入		

入 … 入所児

外来訓練

・ 疾患別対象児数

	26年度	27年度	28年度
脳性麻痺	9	7	4
その他の脳性運動障害(※)	0	1	3
二分脊椎	0	0	0
先天性股関節脱臼	0	0	0
骨系統疾患	0	0	0
外傷後遺症	1	2	2
進行性神経・筋疾患	0	1	1
その他	1	3	0
計	11	14	10

心理検査・療法

[本年度の特徴]

入所児童に対する心理検査を随時実施しており、カウンセリング、箱庭療法などによって心因反応など情緒的な問題に対するケアを行っている。

本年度の実施数は、0であった。

・ 年間件数

		26年度	27年度	28年度
心理検査	知能検査	1	0	0
	発達検査	0	0	0
	性格検査	0	0	0
	その他	1	0	0
心理療法	集団	0	0	0
	個人	4	0	0
	箱庭	0	0	0
	その他	0	0	0
計		6	0	0

⑦ 給食部門

各個人の発育や障害の程度を考慮し、過不足のない栄養と喫食能力に合った食形態にて提供している。

また、給食がセンターの生活において楽しい時間となるよう、献立の内容や盛りつけ等、入所児等に喜んでもらえるよう工夫している。

・ 平成28年度 平均給与栄養量

月別日平均 熱量・ 栄養素	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 日平均
エネルギー (kcal)	1,554	1,566	1,564	1,555	1,544	1,555	1,565	1,567	1,543	1,563	1,567	1,556	1,558
たんぱく質 (g)	65.2	66.8	66.7	67.4	65.3	66.5	67.8	67.4	66.7	67.9	67.3	66.9	66.8
脂肪 (g)	49.0	49.3	50.0	49.8	48.1	48.7	50.4	49.4	47.5	49.5	49.7	49.0	49.2
炭水化物 (g)	210.4	210.9	208.6	207.3	208.0	209.4	207.8	210.0	208.2	209.5	209.2	209.3	209.1
カルシウム (mg)	661	658	661	654	656	668	696	692	655	688	676	657	669
鉄 (mg)	11.5	11.7	11.6	12.2	11.7	12.1	11.5	11.8	11.8	12.2	12.4	11.4	11.8
ビタミンA (μ gRE)	624	608	609	592	653	620	652	629	668	648	679	605	632
ビタミンB1 (mg)	2.20	2.20	2.30	2.30	2.30	2.30	2.20	2.30	2.20	2.30	2.20	2.20	2.25
ビタミンB2 (mg)	1.30	1.30	1.30	1.30	1.20	1.30	1.40	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30
ビタミンC (mg)	116	108	112	114	111	104	112	114	115	121	109	110	112
食物繊維 (g)	12.1	12.0	11.5	11.6	11.2	11.9	11.4	11.7	11.6	11.7	11.4	12.4	11.7
食塩相当量 (g)	6.8	7.1	6.8	6.8	6.9	7.1	7.1	6.9	7.1	6.9	7.2	7.2	7.0
炭水化物 エネルギー 比率(%)	54	54	53	53	54	54	53	54	54	54	53	54	54
脂肪 エネルギー 比率(%)	28	28	29	29	28	28	29	28	28	29	29	28	28

※小学校中～高学年を基準とした給与量。

・平成28年度 食品群別平均給与量

単位(g)

食品群別 / 月別日平均		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 日平均	
動物性食品	魚介類	生 物	59	61	58	61	50	57	60	55	57	55	55	55	57
		練り製品	7	8	8	7	7	7	9	6	9	6	7	9	8
		干 物	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	2	1	1
	獣鳥鯨肉類		63	73	66	70	74	72	68	72	68	69	67	59	68
	牛乳製品	牛 乳	255	263	258	260	259	253	263	262	239	257	263	252	257
		乳製品	59	62	56	50	47	63	64	59	61	58	50	60	57
	卵 類		47	45	50	50	44	49	53	49	57	48	51	51	50
野菜・果物類	野菜類	緑黄色野菜	114	112	118	111	123	123	115	109	116	113	112	99	114
		その他の野菜	183	196	182	185	177	183	184	185	185	210	180	206	188
		きのこ類	8	10	7	12	8	10	11	11	7	8	10	8	9
		野菜漬物	4	3	4	4	3	3	4	3	3	4	4	3	4
	海 藻 類		4	4	4	4	3	4	4	5	4	5	3	4	4
	芋 類	芋	62	55	56	58	51	54	58	66	56	52	59	59	57
		こんにゃく	6	4	4	5	5	4	5	5	4	5	5	7	5
		でん粉	3	2	2	1	2	3	2	3	2	2	3	2	2
	果実類	柑 橘 類	11	12	10	9	11	7	7	23	29	22	16	12	14
		その他の果実	74	67	71	72	82	76	67	62	59	63	68	72	69
穀類	米		148	138	143	143	143	144	143	144	143	144	143	143	
	小 麦		12	27	22	23	23	17	20	19	19	18	21	19	20
	大麦・雑穀		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豆類	大 豆		2	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	
	み そ		10	11	11	11	11	11	11	10	10	10	11	11	11
	大豆製品		44	31	46	43	40	44	41	45	42	47	51	39	43
	その他の豆類		2	1	1	1	2	0	0	2	2	1	0	1	1
油脂調味料及び	油 脂 類		14	14	14	14	14	14	13	14	11	14	14	13	14
	種 実 類		2	2	2	3	3	3	2	3	2	4	3	2	3
	砂糖及び甘味類		7	7	6	6	6	7	7	6	6	6	7	7	7
	調味料及び香辛類		28	27	28	28	28	28	28	28	33	28	30	30	29

※小学校中～高学年を基準とした給与量。

・平成28年度 平均給与栄養量

食品群別

食品群別		目標量 (g)	給与量 (g)		
動物性食品	魚介類	生 物	50	57	
		練り製品	6	8	
		干 物	0	1	
	獣鳥鯨肉類	50	68		
	乳製品	牛 乳	220	257	
		乳 製 品	50	57	
	卵	45	50		
	野菜・果物類	野菜類	緑黄色野菜	100	114
			その他の野菜	200	188
			きのこ類	15	9
野菜漬物			3	4	
海藻類		5	4		
芋類		芋	60	57	
		こんにゃく	5	5	
		でん粉	2	2	
果実類		柑橘類	30	14	
		その他の果実	70	69	
穀類	米	140	143		
	小麦	25	20		
	大麦・雑穀	0	0		
豆類	大豆	1	1		
	みそ	15	11		
	大豆製品	50	43		
	その他の豆類	2	1		
油脂調味料及び	油脂類	10	14		
	種実類	3	3		
	砂糖及び甘味類	9	7		
	調味料及び香辛類	35	29		

エネルギー及び栄養素

	推定エネルギー 必要量及び推奨 量	給与量
エネルギー (kcal)	1,500	1,558
たん白質 (g)	60.0	66.8
脂質 (g)	45.0	49.2
炭水化物 (g)	200.0	209.1
カルシウム (mg)	650	669
鉄 (mg)	9.0	11.8
ビタミンA (μgRE)	550	632
ビタミンB1 (mg)	1.00	2.25
ビタミンB2 (mg)	1.20	1.30
ビタミンC (mg)	80	112
食物繊維 (g)	13.0	11.7
塩分 (g)	8.0	7.0
炭水化物エネルギー比(50~60%)		54
脂肪エネルギー比率(20~30%)		28

※推定エネルギー必要量及び各栄養素の推奨量は、小学校中～高学年を基準とした。

・ 給食延人数

月	措置入所・契約入所					一般入所	短期入所	母子入所	通所	検食	合計
	常食	荒々きざみ	荒きざみ	きざみ	ペースト						
4月	977	90	328	450	478	44	35	0	8	90	2,500
5月	962	93	328	530	511	258	48	0	25	93	2,848
6月	1,104	90	346	542	543	345	40	0	47	90	3,147
7月	1,085	93	342	481	448	265	47	0	21	93	2,875
8月	782	93	312	426	359	343	64	0	10	93	2,482
9月	1,046	90	339	528	415	67	43	0	48	90	2,666
10月	1,247	93	349	553	404	123	41	0	49	93	2,952
11月	1,281	90	347	552	406	159	39	0	46	90	3,010
12月	1,306	93	337	505	379	223	31	0	35	93	3,002
1月	1,034	93	334	567	364	205	16	0	32	93	2,738
2月	1,146	84	321	587	366	239	16	0	52	84	2,895
3月	1,098	93	337	646	338	233	63	0	44	93	2,945
合計	13,068	1,095	4,020	6,367	5,011	2,504	483	0	417	1,095	34,060

きざみ:細かい刻み状、荒:5mm角の刻み状、荒々きざみ:1cm角の刻み状

ペースト:ペースト、ミキサー状

⑧ 入所関係統計資料

表1 入退所状況

・年間入・退所児数(4. 1~3. 31)

	26年度	27年度	28年度
入所	32(0)	34(0)	31(0)
退所	33(0)	34(0)	30(0)

(): 母子入所 再掲

・月別初日在籍児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	在籍延人数	1日平均
26年度	41	48	49	48	50	54	52	52	54	45	46	48	18,577(0)	50.9(0)
27年度	43	43	47	49	46	44	47	45	48	43	46	44	17,194(0)	47.1(0)
28年度	38	45	43	47	44	43	45	49	49	45	46	45	17,433(0)	47.7(0)

(): 母子入所 再掲

・月別入所・退所児数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均
入所	9	0	4	1	2	4	4	3	1	1	1	1	31	
退所	0	2	0	4	4	1	1	2	5	0	2	9	30	
在籍児数 (延)	1,264	1,461	1,471	1,519	1,448	1,342	1,520	1,501	1,580	1,521	1,393	1,413	17,433	47.7

※平成28年度は母子入所の実績なし

表2 病類別構成 (各年度3月1日現在)

	26年度	27年度	28年度
脳性麻痺	16	18	19
その他の脳性運動障害(※)	21	12	14
ペルテス病	4	0	1
二分脊椎	1	1	0
先天性股関節脱臼	0	0	0
先天性内反足	0	0	0
骨系統疾患	0	0	0
外傷後遺症	0	0	0
進行性神経・筋疾患	3	4	4
その他の整形外科疾患	0	0	0
その他	3	9	7
計	48	44	45

※ 頭部外傷を含む

表3 ADL関係 在籍児童数：45 (平成29年3月1日現在)

	食	事	更	衣	排	泄	整	容	入	浴	歩	行
自立	18	7	6	16	6	8						
一部介助	2	4	2	3	1	2						
全介助	25	34	37	26	38	35						

表4 学齢別構成 (各年度3月1日現在)

	26年度	27年度	28年度
未就学児	4	4	4
小学生	19	17	17
中学生	15	14	9
高校生	10	9	15
その他	0	0	0
計	48	44	45

表5 居住地別構成 (各年度3月1日現在)

		26年度	27年度	28年度
県北	福島市	8	4	6
	二本松市	2	3	2
	伊達市	0	0	1
	本宮市	0	1	0
	伊達郡	1	0	0
	安達郡	0	0	0
県北計		11(22.9%)	8(18.2%)	9(20.0%)
県中	郡山市	8	8	9
	須賀川市	6	4	3
	田村市	1	1	2
	岩瀬郡	0	0	0
	石川郡	0	0	0
	田村郡	1	0	1
県中計		16(33.3%)	13(29.5%)	15(33.3%)
県南	白河市	5	6	4
	西白河郡	3	2	2
	東白川郡	0	0	0
県南計		8(16.7%)	8(18.2%)	6(13.3%)
会津	会津若松市	3	5	3
	喜多方市	2	1	1
	耶麻郡	0	0	1
	河沼郡	1	2	1
	大沼郡	2	2	0
会津計		8(16.7%)	10(22.7%)	6(13.3%)
南会津郡		3(6.2%)	3(6.8%)	5(11.1%)
相双	相馬市	0	0	0
	南相馬市	1	1	1
	相馬郡	0	0	0
	双葉郡	0	0	0
相双計		1(2.1%)	1(2.3%)	1(2.2%)
いわき市		1(2.1%)	1(2.3%)	3(6.7%)
県外		0	0	0
その他(不定)		0	0	0
合計		48(100%)	44(100%)	45(100%)

表6 在所期間別構成 (各年度3月1日現在)

	3ヶ月未満	3ヶ月以上 6ヶ月未満	6ヶ月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	計
26年度	5	1	7	9	0	6	20	48
27年度	8	2	4	7	5	2	16	44
28年度	3	4	6	5	5	6	16	45

(2) 通所部門

① 医療型児童発達支援 おひさま

[本年度の特徴]

就学前の幼児を対象としているが医療・介護面の全身状態や、精神発達面の較差が大きくなる傾向にある。

<年間目標>

- 1 安心して通所する
- 2 集団のなかで楽しく遊ぶ
- 3 基本的な生活習慣を身につける

<指導目標>

- ・ 日常生活リズムを身につける
- ・ 友達や先生とのかかわりを通して、人とかかわる楽しさを知る
- ・ 季節の移り変わりを知り、自然に親しみ、関心を持つ
- ・ 遊びを通して経験の幅を広げる
- ・ 人の話を聞いたり、音楽遊びを楽しんで行う
- ・ 身体を動かす楽しさを知る
- ・ 絵画や物を作ったりすることに興味や関心を持つ
- ・ グループ別保育で、一人ひとりの発達に応じた遊びを楽しむ

<日課表>

時間	一日の活動内容	子供の活動のねらいと留意点
9:30	通所 検温	・ 保育に来たという気持ちを育て、安心して集団活動に入れるよう促す
9:45	健康チェック 排泄	・ 外来受診、訓練時間の確認 ・ リハビリテーション科医師による診察、健康状態の把握。必要があれば外来受診の連絡調整
10:00	朝の挨拶・はとぼ っぱ体操 保育（着席） 呼名 歌 カンパワーク 加キラムによる活動 水分補給 ポーター 終わりの挨拶	・ 保護者と共に挨拶をし、リズムに合わせて身体を動かす ・ 保護者と別れ、母子分離での設定保育 ・ 名前を呼ばれたことで、一定の反応を引き出す。（繰り返し行うことで一定の反応を獲得する） ・ 始まりの歌、季節の歌、手あそびの歌 ・ 各自の出席ノットにシールを貼る ・ 感覚遊びを中心とした活動 ・ 麦茶を飲む。保護者以外の人からでも飲めるようにする。 ・ 個別支援計画に基づき行う。 ・ 保護者を呼ぶ。再会場面を大切にする。
11:20	自主訓練	みんなで励まし合って行う。
12:00	昼食 歯みがき指導	・ 手洗いの曲を流し手を洗って席に着く ・ それぞれの座位保持装置やイスに座って保護者の介助のもと食事をする ・ 2学期より年長児は職員による食事指導 ・ 週間計画に基づき歯科衛生士や職員による歯みがき指導を行う
13:15	保育 加キラムによる活動	・ 母子分離での設定保育 ・ 感覚遊びを中心とした活動 ・ 各月の行事、季節の行事も多く取り入れ、保護者にも知ってもらう
14:15	保育終了	・ 保護者と共に降所の挨拶をする

ア 月間行事

月	目 標	行 事
4月	・楽しんで保育に参加する ・新しい先生や友達を知る	・入所式 ・保育始め
5月	・友達と一緒にさまざまなことを体験する	・春の遠足 ・体験保育
6月	・地域の幼稚園との交流を通して、その雰囲気やいろいろな人とのかかわりを体験する。	・富田幼稚園との交流保育
7月	・水遊びを体験する。	・プール開き ・七夕 ・保育参観 ・保育終業式
8月		・2学期保育始め
9月	・元気に遊ぶ。	・お月見 ・園外保育（電車に乗ろう） ・体験保育
10月	・身体を動かし楽しく遊ぶ	・運動会
11月	・行事に楽しく参加する	・七五三
12月	・歌、劇、踊りなどをみんなの前で発表する	・クリスマス会 ・保育終業式
1月	・正月の伝統遊びを体験する。	・福笑い ・双六 ・3学期保育始め ・羽根つき ・体験保育
2月	・元気に遊ぶ	・豆まき
3月	・共同製作を通して、個々の表現活動をする。	・ひなまつり ・お別れ会 ・保育修了式 ・卒所式

イ 保護者教室

[学 習 会]

目的：保護者が子供の状態を正しく理解し、よりよい接し方やケアの方法を学ぶ手助けとなるよう、講話や見学などの機会を提供する。

[レクリエーション]

目的：保護者同士の交流を目的とし、気分転換やリラクゼーションを図りながら、保護者同士の連帯感を深める。

学習会		レクリエーション	
4月15日	1年間の活動計画・目標	4月22日	親子紹介カード作成
5月13日	相談支援専門員講話	5月27日	交流会
6月3日	作業療法士講話	6月24日	先輩お母さんと語る会
9月6日	歯科衛生士講話	9月30日	親子で講堂遊び
10月7日	栄養士講話	10月28日	卒所製作

学習会		レクリエーション	
11月28日	小児科医森田副所長講話	11月25日	卒所製作
12月2日	保健師講話	12月9日	卒所製作
1月12日	整形外科医武田所長講話	1月27日	先輩お母さんと語る会
2月10日	心理判定員の講話	2月24日	卒所制作
2月24日	今年度の反省と次年度の計画	3月15日	お別れ会

② 放課後等デイサービス ひだまり（平成26年10月から事業開始）

当該事業は、障がい児が授業の終了後又は学校の休業日に当センターへ通い、社会生活能力等の向上のために、多彩な専門スタッフが個別支援計画に基づき必要な支援を行うものである。

〈日課表〉（平日の場合）

時間	活動内容
14:30	登所・荷物整理・検温
15:00	水分補給・健康チェック
15:30	始まりの会 課題活動・個別活動
16:15	帰りの会・降所準備
16:30	降所開始
17:00	降所

・利用者の状況（延べ人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
26年度							17	27	25	22	13	23	127
27年度	27	14	34	38	47	34	45	35	38	40	41	36	429
28年度	46	39	48	49	39	48	47	56	39	24	34	39	508

ウ 通所関係統計資料

表1 疾患別構成（各年度3月1日現在）

	26年度	27年度	28年度
脳性麻痺	2	1	0
その他の脳性運動障害	1	2	4
運動発達遅滞	1	0	0
進行性神経・筋疾患	0	0	0
染色体異常	0	0	1
奇形症候群	0	0	0
その他	3	6	5
計	7	9	10

表2 退所後の進路

	26年度	27年度	28年度
普通小学校	0	0	0
普通小学校(特別支援学級)	0	1	0
支援学校(知的障害)	0	0	0
支援学校(肢体不自由)	3	2	2
保育所	0	0	0
幼稚園	0	0	0
児童発達支援	0	0	3
その他	1	0	0
計	4	3	5

表3 居住地別構成

		26年度	27年度	28年度
県北	福島市			
	二本松市			
	伊達市			
	本宮市	1		
	伊達郡			
	安達郡			
	県北計	1(14.3%)	0(0%)	0(0%)
県中	郡山市	5	7	8
	須賀川市	1	1	1
	田村市			
	岩瀬郡			
	石川郡			
	田村郡			
	県中計	6(85.7%)	8(88.9%)	9(81.8%)
県南	白河市			
	西白河郡			
	東白川郡			
	県南計	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
会津	会津若松市			
	喜多方市			
	耶麻郡			
	河沼郡			1
	大沼郡			
	会津計	0(0.0%)	0(0.0%)	1(9.1%)
	南会津郡	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
相双	相馬市			
	南相馬市			
	相馬郡			
	双葉郡			
	相双計	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	いわき市	0(0.0%)	1(11.1%)	1(9.1%)
	県外			
	その他(不定)			
	合計	7(100%)	9(100%)	11(100%)

表4 通所・理学療法疾患別対象児数

	26年度	27年度	28年度
脳性麻痺(リスクを含む)	2	1	1
その他の脳性運動障害	1	2	4
二分脊椎・脊推疾患	1	1	0
進行性神経・筋疾患	0	0	0
骨・関節疾患	0	0	0
染色体異常	0	0	1
(精神)運動発達遅滞	2	3	1
その他	1	0	2
計	7	7	9

表5 作業療法年間疾患別対象児数

	26年度	27年度	28年度
脳性麻痺	1	1	1
その他の脳性運動障害	0	1	1
運動発達遅滞	1	1	0
進行性神経・筋疾患	0	0	0
染色体異常	0	0	1
奇形症候群	0	0	1
その他	3	4	2
計	5	7	6

表6 言語聴覚療法年間疾患別対象児数

	26年度	27年度	28年度
脳性麻痺	0	0	0
その他の脳性運動障害	0	0	0
運動発達遅滞	0	0	0
進行性神経・筋疾患	0	0	0
染色体異常	0	0	0
奇形症候群	0	0	0
その他	3	1	0
計	3	1	0

表7 心理検査年間件数

	26年度	27年度	28年度
知能検査	1	1	0
発達検査	8	4	3
性格検査	0	0	0
その他	3	3	0
計	12	8	3

(3) 母子入所部門

障がいに対する早期療育の目的で、痙性麻痺を呈する乳幼児に対し、概ね2ヶ月にわたり、手術、後療法、保育、母親教室（医療・福祉面、栄養指導等）を行っている。

<日課表>

時刻	児 童 日 課
7:00	朝食
9:00	回診（木）自主訓練
10:00	※保育
12:00	昼食

時刻	児 童 日 課
13:30	入浴（月・金）自主訓練
17:00	夕食
21:00	消灯

※ 保育：センター内検討会で適否を判断。

2 診療相談

(1) 一般入所の概要

[本年度の特徴]

一般病院への入院と同様で、おもに小児整形外科領域の手術を受けるための入所が多く、対象疾患として先天性股関節脱臼、先天性内反足、大腿骨頭すべり症、ペルテス病、脳性麻痺など多岐にわたる。最近ボトックス療法も取り入れられている。また、内反足に対するアキレス腱切腱術などの小手術を行う場合、本人、家族の負担の軽減のため、日帰り入所も行っている。

(2) 外来患者の概要

[診療予定表] (27.4.1現在)

受付 午前8時30分 ~ 午前11時30分
午後1時00分 ~ 午後4時00分

	月		火		水		木		金		備 考
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	
整形外科	○	○	○	○	○		○				
小児科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
精神科	○	○	○	○	○		○	○	○	○	第2金曜 午前のみ
耳鼻咽喉科		○	○	○	○	○	○	○	○	○	水曜日 眼科診療日以外
眼科					○						第2、4水曜 午前のみ
泌尿器科					○						第1、3水曜 午前のみ
歯科			○	○	○	○	○	○	○	○	

※ 整形外科を除いて、各診療科、完全予約制。

① 年間外来診療件数 (4.1~3.31)

		26年度	27年度	28年度
医科	整形外科	3,663	4,054	4,049
	小児科	6,781	6,748	5,862
	耳鼻咽喉科	1,944	2,643	2,764
	精神科	2,600	3,126	3,250
	眼科	472	479	395
	泌尿器科	124	113	131
歯科		3,095	2,850	2,638
訓練	リハビリテーション科	11,770	11,661	11,294
計		30,449	31,674	30,383

② 年間新患状況 (4.1~3.31)

・年齢別構成 (歯科を除く)

年 齢	26年度	27年度	28年度
1歳未満	63	104	99
1歳	55	50	41
2歳	83	68	75
3歳	142	163	148
4歳	104	71	70
5歳	78	94	57
6歳~12歳	177	183	159
13歳以上	68	85	73
計	770	818	722

・居住地別構成 (歯科を除く)

	26年度	27年度	28年度
福島市	58	46	42
二本松市	55	61	61
郡山市	267	260	212
須賀川市	54	49	38
白河市	49	43	34
会津若松市	14	14	13
喜多方市	5	5	7
相馬市	2	8	3
いわき市	28	37	30
田村市	7	7	6
南相馬市	4	5	8
伊達市	27	38	41
本宮市	43	53	45
伊達郡	15	14	17
安達郡	9	8	18
岩瀬郡	4	6	6
田村郡	33	40	27
石川郡	9	16	16
西白河郡	15	43	26
東白川郡	24	14	13

	26年度	27年度	28年度
耶麻郡	8	7	7
河沼郡	2	2	2
大沼郡	1	5	2
南会津郡	5	3	3
相馬郡	2	2	3
双葉郡	24	25	27
県外	6	7	15
計	770	818	722

(3) 整形外科

[本年度の特徴]

福島医大との連携のもと、福島県の障がい児医療、小児整形外科医療の中核としての役割を担っている。小児整形外科全般にわたる外来・入所治療、手術療法を行っている。特に小児股関節、軟部組織の異常の診断においては従来のX線撮影の他、侵襲の少ない超音波（エコー）を取り入れるようになった。

また、脳性麻痺の痙性麻痺に対しボツリヌス毒素を用いた治療も行っており、件数も増えている。

① 年間診療件数

26年度	27年度	28年度
3,663	4,054	4,049

② 疾患別初診件数

	26年度	27年度	28年度	
脳性麻痺（リスクを含む）	16	17	23	
その他の脳原性疾患	4	1	4	
運動発達遅滞	7	14	10	
精神遅滞	19	11	0	
足変形	13	16	30	
先天性股関節脱臼	11	26	12	
臼蓋形成不全	13	13	16	
開排制限	1	2	3	
染色体異常	ダウン症候群	6	6	3
	その他の染色体異常	2	6	3
下肢変形	27	18	35	
歩容異常	4	5	1	
四肢奇形	3	8	3	
手指変形	1	0	0	
筋性斜頸	6	4	5	
脊椎側彎症	10	4	10	

	26年度	27年度	28年度
ペルテス病	2	6	2
大腿骨頭すべり症	4	5	3
二分脊椎	3	0	1
骨系統疾患	4	5	4
進行性神経・筋疾患	2	7	0
先天性多発関節拘縮症	1	0	1
脊髄損傷	0	0	0
頭部外傷後遺症	0	0	2
その他	57	57	52
合 計	216	231	223

③ 疾患別手術件数

	26年度	27年度	28年度
脳性麻痺	17	21	23
先天性股関節脱臼	8	9	6
先天性内反足	9	4	12
筋性斜頸	3	2	2
四肢外傷後遺症	2	1	1
二分脊椎	3	5	5
先天性多発性関節拘縮症	0	2	1
先天性奇形	0	0	5
大腿骨頭すべり症	10	4	5
ペルテス病	10	3	1
滲出性中耳炎	0	0	0
その他	21	27	22
計	83	78	83

④ 補装具処方数

	26年度	27年度	28年度
義肢	2	1	0
上肢装具	0	0	0
体幹装具	10	29	30
下肢装具	246	265	206
ペルテス病装具	1	1	1
先天股脱装具	4	4	5
内反足装具	8	11	15
車椅子	86	79	101
電動車椅子	7	2	6

	26年度	27年度	28年度
座位保持装置	86	85	80
歩行器	9	10	7
頭部保護帽	8	4	4
歩行補助杖	2	0	0
その他	10	19	30
計	479	510	485

(4) 小児科

[本年度の特徴]

平成28年度は、常勤医2名と福島県立医科大学附属病院及び大原総合病院小児科から応援を頂き外来診療を行った。

新患数は201名で、前年度同様、発達遅滞を含む発達障がい中心の新患予約がほとんどであり、発達の検査、診断、療育指導及び保育所、学校等との連携が重要な役割となっている。

① 年間診療件数

26年度	27年度	28年度
6,781	6,748	5,861

② 疾患別初診件数

	26年度	27年度	28年度
脳性麻痺（リスクを含む）	4	8	4
精神遅滞	164	135	58
運動発達遅滞	23	5	7
けいれん性疾患	1	0	0
広汎性発達障害	89	89	78
LD・ADHD	21	12	6
頭部外傷後遺症	0	1	1
神経感染症後遺症	0	0	0
無酸素性脳症後遺症	0	0	1
脳血管障害	0	0	0
脳奇形	0	0	0
二分脊椎	0	0	0
奇形症候群	0	0	0
染色体異常	2	4	6
神経・筋疾患	0	1	1
言語発達遅滞	46	31	17
機能性構音障害	0	0	0
難聴	0	0	0

	26年度	27年度	28年度
その他	25	9	22
計	375	295	201

(5) 耳鼻咽喉科

[本年度の特徴]

当センターは、新生児スクリーニング検査後の精査機関であり、新生児聴覚スクリーニングの普及に伴い、0～6ヶ月児の新患が増加している。

そのため、6ヶ月未満の難聴の発見、補聴器装用指導を含む療育が増えている。さらに、人工内耳の手術適応年齢も低年齢化し、それに加え人工内耳の両耳装用が可能となったことで、療育の必要な難聴児が増加している。

福島県は、難聴発見率が全国第1位であり、当センターは福島県の難聴児の90%を診断し療育しており、今後ますます当センターの果たす役割が重要になると考えられる。

また、言葉の遅れ、発音の異常についても、現在、小児科や小児精神科で早期の対応が難しいため、当科を先に受診する症例が増え、聴検と同時に言語評価がますます増加している状況である。

① 年間診療件数

26年度	27年度	28年度
1,944	2,643	2,764

② 疾患別初診件数

	26年度	27年度	28年度
難聴（疑いを含む）	224	228	175
構音障害	3	45	38
耳介外耳道奇形	1	0	0
言語発達遅滞	1	17	32
口唇・口蓋裂	1	1	0
耳垢栓塞	5	4	7
中耳炎・鼻炎・アレルギー性鼻炎	13	7	5
副鼻腔炎	3	2	6
鼻咽腔閉鎖不全症	0	0	0
その他	11	18	15
計	262	322	278

(6) 精神科

[本年度の特徴]

年々、診療件数が増加してきている。新患受診の内訳をみると8割強が発達障がい患者であり、年齢層も低年齢化していて就学前の児童が半数近くを占める。また、発達障がいに加え情緒障がいや不適用行動などの合併症が増加している。

① 年間診療件数

26年度	27年度	28年度
2,600	3,126	3,250

② 疾患別初診件数

	26年度	27年度	28年度
精神遅滞	6	4	5
言語発達遅滞	2	1	2
ADHD/LD/チック	30	22	10
ASD/自閉症	128	167	163
広汎性発達障がい			
睡眠障害	1	0	0
摂食障害	1	0	0
適応障害	7	12	8
精神病	2	0	1
不安障害	0	0	2
その他	10	6	0
計	187	212	191

(7) リハビリテーション科

[本年度の特徴]

各訓練とも、横ばいの状態である。

① 年間診療件数

26年度	27年度	28年度
11,348	※11,661	※11,294

※ 通所を含む。

② 理学療法

[本年度の特徴]

新規処方年齢は6歳以上で増加しており、特に18歳以上が年々増加する傾向にある。

ア 新規処方数

年 齢	26年度	27年度	28年度
0～5ヶ月	3	0	2
6～11ヶ月	11	3	2
12～17ヶ月	9	4	4
18～23ヶ月	12	4	9
2歳	5	6	3
3～5歳	9	10	11
6～12歳	14	28	25
13歳～	43	51	66
計	106	106	122

イ 疾患別対象児数

	26年度	27年度	28年度
脳性麻痺（リスクを含む）	156	166	167
その他の脳原性疾患	93	83	83
二分脊椎・脊椎疾患	23	19	16
進行性神経・筋疾患	25	28	30
骨・関節疾患	16	18	20
染色体異常	15	13	17
（精神）運動発達遅滞	45	36	26
その他	16	15	23
計	389	378	382

③ 作業療法

[本年度の特徴]

発達障がい児が外来児の過半数を占めている。患児1名に対して月1.08回の実施回数となっている

ア 新規処方数

平成26年度	平成27年度	平成28年度
156	133	132

イ 疾患別対象児数

	26年度	27年度	28年度
脳性麻痺（リスクを含む）	66	56	52
その他の脳原性疾患	53	46	46
二分脊椎・脊椎患者	4	4	4
進行性神経・筋疾患	5	7	10
骨・関節疾患	4	4	1
染色体異常	15	17	17

	26年度	27年度	28年度
(精神) 運動発達遅滞	56	59	44
広汎性発達障害	244	272	277
その他	9	8	10
計	456	473	461

ウ 訓練開始時年齢

		26年度	27年度	28年度
0歳	0～5ヶ月	1	1	1
	6～11ヶ月	3	4	4
1歳	12～17ヶ月	9	9	6
	18～23ヶ月	22	25	19
2歳		84	92	94
3～5歳		248	246	235
6～12歳		84	90	95
13歳		5	6	7
計		456	473	461

④ 言語聴覚療法

訓練と検査を含めた新規処方と継続を含めた対象児数は、907名、訓練と検査を行った延件数は3,766件であった。

なお、イの分類について平成28年度より若干の変更を行った。

ア 新規処方数

26年度	27年度	28年度
321	351	278

イ 言語障害別対象児数

		26年度	27年度	28年度
脳性まひ（リスクを含む）		21	15	8
精神（運動）発達遅滞		110	62	36
発達障がい（SAD、ADHD等）		220	181	137
言語発達遅滞		31	15	28
聴覚障害	その他 （疑いを含む）	453	519	351
	補聴器			206
	人工内耳	61	71	73
機能性構音障害		33	43	54
口唇口蓋裂		4	2	0
吃音		7	7	1
染色体異常		15	9	3
後遺症		3	4	6
その他		9	11	4

⑤ 心理検査・療法

[本年度の特徴]

小児科のオーダーによる発達評価が心理検査のかなりの部分を占めている。対象は身体的な合併を伴う場合も含め、MR、広汎性発達障害、ADHDなどの発達障害を有する児であり、おおよそ1年～2年の間隔で実施している。

心理療法はほとんどが心の発達相談室（精神科）のケースで、対象疾患は緘黙、軽度発達障害の二次障害などである。

		26年度	27年度	28年度
心理検査	知能検査	921	884	863
	発達検査	376	268	226
	性格検査	0	1	0
	その他	1,290	1,096	1,017
心理療法	集団	0	0	0
	個人	10	6	7
	箱庭	4	2	2
	その他	0	0	0
計		2,601	2,257	2,115

(8) その他の診療科

① 歯科

担当医：療育センター歯科協力会

[本年度の特徴]

齲蝕症で受診した患者には、歯肉炎を併発している割合が多い。

入所児、養護学校寄宿舎に対して定期的に歯みがき指導を行っている。

ア 年間診療件数

26年度	27年度	28年度
3,095	2,850	2,638

イ 疾患別初診児数

	26年度	27年度	28年度
外傷	0	0	0
齲蝕症	33	26	29
歯髄炎	0	0	0
根尖性歯周炎	0	1	2
歯肉炎	20	25	19
歯周炎	1	0	1
咬合異常	0	0	1
欠損	0	0	0
その他	4	7	8
計	58	59	60

② 眼科

[本年度の特徴]

屈折異常（特に遠視性乱視、近視性乱視が多い）と斜視の受診児が多く、これらに対して眼鏡の装用を指導し視機能の向上を目指している。

ア 年間診療件数

26年度	27年度	28年度
472	479	395

イ 疾患別初診児数

	26年度	27年度	28年度
屈折異常	37	50	24
斜視	2	1	1
視覚発達遅延	1	0	0
眼底・視神経疾患	2	0	0
先天異常	0	0	0
眼振	0	0	0
結膜炎	2	0	1
眼瞼内反症	1	0	0
一般	0	0	0
その他	3	2	1
計	48	53	27

③ 泌尿器科

[本年度の特徴]

患者の多くは、二分脊椎、脊髄損傷等による神経因性膀胱の患児である。自己導尿を行っている患児の定期的な診察と検査（検尿・エコー・膀胱造影）を実施しフォローしている。

ア 年間診療件数

26年度	27年度	28年度
124	113	131

(9) 薬剤部、臨床検査、放射線、地域支援室

① 薬剤部

ア 年間処方件数

	26年度	27年度	28年度
外 来	3,892	4,275	4,290
入 所	1,982	2,237	2,130
計	5,874	6,512	6,420

② 臨床検査

ア 年間臨床検査数

	26年度	27年度	28年度
血液・生化・血清検査	9,268	8,402	8,576
尿検査	3,284	2,898	3,063
細菌検査	168	159	133
電気生理検査	382	408	328
病理学検査	3	1	0
その他	46	44	64
計	13,151	11,912	12,164

③ 放射線室

ア 年間撮影件数

		26年度	27年度	28年度
一般撮影	外来	2,112	2,230	2,445
	入所	680	612	658
CT撮影	外来	46	59	46
	入所	6	13	8
計		2,844	2,914	3,157

④ 地域支援室

平成17年4月から設置

ア 肢体不自由児地域リハビリテーション支援事業

平成17年度から、地元の医療機関で継続した訓練が受けられるよう、理学療法士や作業療法士、保健師などが応援スタッフとして赴き技術支援を実施している。

実施地域	実施医療機関	登録者数		実施(回)	実施人数(人)				
		理学療法	作業療法		理学療法		作業療法		個別相談(所外)
					実	延	実	延	
相 双	南相馬市立総合病院	12	7	24	12	98	7	70	44
南会津	県立南会津病院	2		24	2	40			8
県 南	塙厚生病院	8		24	8	120			42
計		22	7	72	22	258	7	70	94

打合せ及び会議…事業打合せ1回、事業反省会3回、事業評価会1回

イ 保健・医療・福祉相談

電話や面接形式で保健・医療・福祉に関するあらゆる相談を受けている。相談内容としては、在宅療養支援サービスの1つである「短期入所事業に関する相談」や「治療・訓練目的の入所(通所)相談」、「児の療育相談と関係機関との連携」などが多い。

これらの相談に対し、情報提供を含めた助言、及び児童相談所をはじめとした地域の保健・医療・福祉担当者と連携した対応を行っている。

なお、平成28年度より短期入所、契約入所に関する事務手続きについても地域支援室で行っている。また、処遇困難等のケースについては、ケース会議やサービス担当者会議を開催または参加している。

ケース会議等の開催…年10回

(件)

手段	電話	面接	計
相談内容			
短期入所事業に関するもの	194	153	347
入所・通所に関するもの	117	116	233
医療給付に関するもの	7	3	10
福祉制度に関するもの	16	15	31
療育に関するもの	292	92	384
その他	165	145	310
計	791	524	1,315

3 短期入所事業及び日中一時支援事業

・利用状況（利用定員 5人/日）

		26年度	27年度	28年度
新規契約数		24	11	※ 36
利用 内 訳	短期入所 (宿泊)	実人数	45	77
		件数	57	78
		延べ日数	127	255
	日中一時支援 (日帰り)	実人数	79	141
		延べ日数	130	237

※ 内訳:短期入所24件、日中一次支援12件

・短期入所委員会…年3回実施

4 保育所等訪問支援及び障害児相談支援・特定相談支援事業

(1) 実施機関

「児童発達支援センター そよかせ」(H27年4月開設)

(2) 基本方針

当センターの専門スタッフが、障がい児及び障がいの疑いのあるお子さん（障がい者を含む。）を持つご家族等（以下、「利用者」と言う。）から相談を受け、生活の適応、向上のためのアドバイスを行う。

また、必要に応じ、利用者が通う保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校等を訪問し、集団生活適応のための専門的な支援を行う。

(3) 支援方法

① 保育所等訪問支援

・ 支援に際し、利用者だけでなく、利用者を取り巻く生活環境（家族、施設等）を含めた多面的な視点でとらえることで、相談内容に応じた専門スタッフをチーム編成し効果的かつ専門的な支援を行う。

必要に応じて、利用者が通う保育所等を訪問し、担当職員等も交えて支援内容を話し合う。

- ・ 利用者と話し合いながら、ひとりひとりに合ったサービス等利用計画を作成し、きめ細かい支援を継続的に行う。

② 障害児相談支援及び特定相談支援

利用者から電話等でご相談をいただき、直接アドバイスを行うとともに、サービス等利用計画に基づき、継続的なサービス利用の支援を行う。

(4) 利用日及び利用時間

月曜日から金曜日までの午前9時から午後5時まで

国民の祝日及び年末年始（12月29日から1月3日まで）は、休業日。

(5) 対象者

① 保育所等訪問、障害児相談支援及び特定相談支援（共通）

肢体不自由、知的障害、難聴、重症心身障害、発達障害等の障がいのあるお子さん及び障がいの疑いのあるお子さん。（障がい者を含む）

② 保育所等訪問支援

保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校等へ通い、受給者証を取得している利用者。

(6) 対象地域

郡山市内に在住の方。

当センターを利用している場合は所在を問わず利用できる。

(7) スタッフ

保育士（相談支援専門員） 1名…専従

心理判定員、医療技師等（PT、OT、ST）看護技師、保健師…兼任

(8) 事業実績

サービス等利用計画、モニタリング作成件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス等利用計画	9	5	9	4	2	3	5	6	4	2	4	13	66
モニタリング	3	4	5	2	3	6	6	4	7	4	1	1	46

サービス等利用計画の内容（延べ数）

医療型児童発達支援	児童発達支援	放課後等デイサービス	短期入所	保育所等訪問支援	療養介護
13	10	24	11	7	1

市町村別利用者数

郡山市	福島市	会津若松市	いわき市	川俣町	平田村	大熊町	合計
37	7	1	1	1	2	1	50

5 発達障がい者支援センター

(1) 設立の目的

当センターは、発達障害者支援法に基づく支援機関である。福島県在住の自閉症などの発達障がいのある方やその家族が安心して暮らすための支援をするとともに関係機関と連携を図りながら身近な地域での支援体制の整備を目的としている。

(2) 発達障がいとは

発達障害者支援法では自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの脳機能の障害で通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものとされている。(発達障害者支援法第2条)

(3) 業務内容

① 相談支援

日常生活等に関わる相談を受け、助言や福祉サービスの情報提供を行う。

② 発達支援

発達の状態について、医学的な診断や発達検査等による評価を行い、発達障がい者及びその家族や関係機関に対して助言を行う。

③ 就労支援

就労を希望する発達障がい者に対して就労に向けての必要な相談を行うとともに、必要に応じて労働関係機関と連携を図る。

④ 普及・啓発活動

発達障がいについての正しい情報や社会的支援の必要性について、より多くの方々に理解していただけるよう普及・啓発を行う。

(4) 実施件数

① 相談支援(就労支援を除く)・発達支援(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

年齢層	実支援 人員
0～3歳(乳幼児前期)	50
4～6歳(乳幼児後期)	55
7～12歳(小学生)	60
13～15歳(中学生)	37
16～18歳	29
19歳以上	182
不明	38
合計	451

障がい種別	実支援 人員
自閉症	40
アスペルガー症候群	23
広汎性発達障害	16
注意欠陥多動性障害 (AD/HD)	31
学習障害 (LD)	0
その他(発達性言語障害・協調運動障害等)	7
不明(未診断も含む)	334
合計	451

相談内容（重複有）	延支援 件数
相談の対象となっている児（者）が発達障がいかどうか知りたい	225
現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい	77
利用できる制度について知りたい（手帳、年金、手当、障がい福祉サービスなど）	37
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	184
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	16
進路や将来の生活に関する相談をしたい	15
対応困難な状況の改善について相談したい（強度行動障害、ひきこもりなど）	5
今後の就労について相談したい	8
現在勤めている職場に関する相談をしたい	2
その他	23
合 計	592

② 相談支援(就労支援に重点を置くもの)・就労支援(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

年齢層	実支援 人員
0～3歳(乳幼児前期)	
4～6歳(乳幼児後期)	
7～12歳(小学生)	
13～15歳(中学生)	
16～18歳	1
19歳以上	35
不明	6
合計	42

障がい種別	実支援 人員
自閉症	4
アスペルガー症候群	7
広汎性発達障害	3
注意欠陥多動性障害 (AD/HD)	6
学習障害 (LD)	0
その他(発達性言語障害・協調運動障害等)	0
不明(未診断も含む)	22
合 計	42

相談内容（重複有）	延支援 件数
相談の対象となっている児（者）が発達障がいかどうか知りたい	1
現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい	6
利用できる制度について知りたい（手帳、年金、手当、障がい福祉サービスなど）	12
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	22
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	3
進路や将来の生活に関する相談をしたい	1
対応困難な状況の改善について相談したい（強度行動障害、ひきこもりなど）	0
今後の就労について相談したい	37
現在勤めている職場に関する相談をしたい	4
その他	3
合 計	89

③ 普及・啓発活動

	実施回数	延参加人数
センター主催で企画した研修(実施状況下記5に記載)	38	184
外部から講師依頼を受けた研修(講師派遣)	14	552
合 計	52	736

④ 関係施設・関係機関等との連携

	実施回数	延参加団体数
調整会議	2	34

⑤ 支援機関に対する訪問相談支援事業

対象機関	実支援箇所数
保育所	5
幼稚園	7
合 計	12

(5) 主催研修の実施状況

① 家族のためのワークショップ事業

対象者：発達障がいまたは発達障がいの疑いのある方の家族

内 容：ア 発達障がいのある子どもの理解と支援（講義）

イ サポートブックについて（講義）

ウ 情報交換（グループワーク）

実施月日	実施場所	参加者数
平成28年 9月 7日（水）	南相馬市原町保健センター	10
平成28年10月 5日（水）	会津若松市北会津支所ピカリンホール	16
平成28年10月26日（水）	いわきサンアビリティーズ	20
平成28年11月 9日（水）	県総合療育センター	27
平成28年12月15日（木）	白河市中央福祉センター	14
平成29年 1月25日（水）	福島市身体障がい者福祉センター	12
合 計		99

② 発達障がい専門療育力向上事業

対象者：発達障がい児（者）の支援機関（障害児通所支援事業所、障害福祉サービス事業所等）

内 容：事例検討会を実施し、地域の専門家に助言を依頼する。

実施月日	事例提供機関	助言者	参加者数
平成28年11月 2日（水）	放課後等デイサービス事業所「伊達市すまいる園」	よこはま発達クリニック 院長 内山登紀夫 氏	23
平成28年12月 7日（水）	児童発達支援センター「通所支援事業所チエロ」	特定非営利活動法人 夢あるき 理事長 森田まゆみ 氏	17
合 計			40

③ ペアレント・トレーニング講座

参加者：保護者 5名

内 容：発達障がいのある子どもの特性に合わせた関わり方を学ぶことができ、講義だけでなく少人数のグループワークや、家庭での実践を通して学べるプログラム。

日 時：全 9 回の連続講座・所要時間60～90分程度

1クール … 平成28年9月～12月

2クール … 平成28年12月～平成29年3月

(6) 被災した障がい児に対する医療支援事業実施状況

内 容：東日本大震災又はそれに伴う原発事故により避難している、発達障がいの疑いのある児童について、来所又は巡回により診察を行う。

来所相談 … 5回 5名
巡回相談 … 2回 2名（いわき市：2回 2名）

6 その他

(1) 実習生・ボランティア受入

理学療法臨床実習	実人数 2人、受入延日数 63日
作業療法臨床実習	実人数 2人、受入延日数 67日
看護実習	実人数 83人、受入延日数 342日
保育実習	実人数 13人、受入延日数 81日
ボランティア	富田町ボランティアクラブ 22人 本宮シンフォニックバンド 18人
歯科実習生	実人数 29名 受入延日数 58日
高校生一日看護体験	実人員 4名 受入延日数 4日
医学部実習	実人数 30名 受入延日数 30日

(2) 外部講演会講師・ケース検討会等（言語聴覚士、作業療法士、理学療法士）

[言語聴覚療法外部依頼関係]

実施月日	内 容
平成28年 4月26日	オーディオ機器研修
平成28年 5月31日	聾学校平分校ケース相談会
平成28年 6月28日	郡山市おやこふれあい教室
平成28年 8月 3日	養護教育センター自主研修講座、ケース会議
平成28年 8月 5日	三春町手話奉仕員養成講座
平成28年 8月31日	郡山市希望ヶ丘学園療育研修会
平成28年 9月 6日	浅川町・石川町ことばの相談会
平成28年 9月25日	福島県言語聴覚士会スキルアップセミナー
平成28年10月27日	聴覚障がい者相談会（伊南村）
平成28年10月25日	郡山市おやこふれあい教室
平成28年11月 9日	補装具適正給付検討研修会
平成28年11月22日	郡山市ペンギン教室
平成28年11月29日	石川町ことばの相談会
平成28年12月 7日	福島県難聴・言語障害教育研究会指導法研修会
平成28年12月14日	郡山市希望ヶ丘学園療育研修会
平成29年 1月 7日	郡山市ペンギン教室
平成29年 1月13日	郡山市おやこふれあい教室
平成29年 2月15日	福島県言語聴覚士会県中支部症例検討・研修会
平成29年 3月10日	石川町ことばの相談会

[理学療法外部依頼関係]

実施月日	内 容
平成28年 6月15日	飯館村子育て支援センター（遊びの教室 講師）

[作業療法外部依頼関係]

実施月日	内 容
平成28年 5月17日	郡山市おやこふれあい教室講師
平成28年 6月21日	郡山市おやこふれあい教室講師
平成28年 6月29日	県立相馬養護学校 専門家派遣による児童生徒及び教員支援
平成28年 7月22日	二本松市小学校教育研修会特別支援教育研究部講演会講師 「特別支援教育に活かす作業療法士の知恵と技～子どもたちの理解を深めよう～」
平成28年 8月 3日	養護教育センター 自主研修講座講師 「うごきに課題のある子どもの理解と対応～感覚統合療法を通して～」
平成28年 8月23日	郡山市おやこふれあい教室講師
平成28年10月 5日	郡山市立希望ヶ丘学園療育指導講習会講師 「子どもの遊びと感覚統合」
平成28年11月28日	郡山市おやこふれあい教室講師
平成28年11月30日	飯館村子育て支援センター 遊びの教室 講師
平成29年 1月10日	郡山市おやこふれあい教室講師

(3) 公開講座

療育に関する知識を啓蒙するために、だれでも参加できる「公開講座」を開催している。

日 時：原則毎月第2金曜日 午後4時～

場 所：総合療育センター会議室

参加費：無料

平成28年度

開催月	講 師	講 座 の 内 容
4月	医師（整形外科）	脳性麻痺について
5月	医師（耳鼻咽喉科）	嚥下のメカニズムと摂食嚥下障害への対応
6月	医師（耳鼻咽喉科）	難聴のメカニズムと対応について
7月	心理判定員	発達障害がある子のための 「暗黙のルール」の学び方
8月	医師（小児科）	てんかんと向き合おう
9月	医師（精神科）	発達障害がいの薬物療法 (特に少量処方について)
10月	理学療法士	脳性麻痺の拘縮予防
11月	作業療法士	不器用さんの学習を助ける道具たち ～実際に使って体験してみましよう～
12月	言語聴覚士	ことばの発達とコミュニケーションについて
1月	医師（精神科）	発達障がい児の問題行動の捉え方
2月	心理判定員	発達障がいのペアレントトレーニング入門 ～見て学べる実演付き～

Ⅲ 研究成果等

○ 第61回全国肢体不自由児療育研究大会

- ① 福島県総合療育センターにおける自閉症スペクトラム児の構音の誤りについて
言語聴覚士 笠間 亜依子

- ② 医療型障害児入所施設における入所児家族と
看護師による交換ノートの現状と課題
看護師 白岩 美穂

○ 第51回東北・北海道肢体不自由児施設療育担当職員研修会

- ③ 福島県総合療育センターにおける成人外来患者の理学療法の現状
理学療法士 早坂 千都香

- ④ 重度知的障がい児の障がい特性を理解した援助と行動変容
～機能的アセスメントを用いた援助を通して～
看護師 平澤 久子

○ 第50回日本作業療法学会

- ⑤ 母子保健領域における作業療法士の役割
作業療法士 今川 雅代

○ 第26回日本障がい者スポーツ学会 in 大分

- ⑥ 障がい者スポーツ導入における医師の役割
～福島県運動導入教室に携わって～
医師（整形外科） 松尾 洋平

○ 第55回日本小児股関節研究会

- ⑦ 5歳まで未治療だった左発育性股関節形成不全（脱臼）の一例
※ 学会賞（桃太郎賞）受賞
医師（整形外科） 松尾 洋平

※②については、第30回県立病院看護部研究発表会においても報告した。

